



# NPO法人 国際ロボフェスタ協会

～ ロボット教育と日本の未来シンポジウム～

教育現場におけるロボコンの実態と効果が、そこに携わるさまざまな人の口から語られた。

「ロボマガ」記者・<sup>きいだかつひと</sup>城井田勝仁

平成16年11月18日(木)、科学技術館(東京都千代田区)でNPO法人国際ロボフェスタ協会として、はじめての会合が開かれた。静かな立ち上がりを見せたシンポジウムだったが、さすがに全国から集った熱心なロボット教育関係者たちである。しばらくすると会場は熱気に包まれ、交わされる議論はいつ果てるとももしれないほど白熱していった。

任意団体「ロボット創造国際競技大会中央委員会」から、NPO法人「国際ロボフェスタ協会」へ

平成13年、大阪府と神奈川県4都市において、ロボフェスタ2001が開催された。この一大イベントは、ロボットやロボコンを一般の人にも広く認知させることに貢献した。

ロボット創造国際競技大会中央委員会は、そのロボフェスタ2001の実施に向けて設立された任意団体である。大会実行委員会との総合調整などを行い、ロボフェスタ2001を成功へと導いた。その後もロボット創造国際競技大会中央委員会は、ロボットによるものづくり教育を推し進める、いわゆるロボフェスタ運動を続けていた。

しかし、任意団体としての継続的な活動には限界があることから、NPO(特別非営利活動)法人格の取得を申請するにいたった。

その認可は平成16年10月に完了し、今回のシンポジウムは最初の会合となる。NPO法人国際ロボフェスタ協会として、これからの方向性を決める上でも重要な会合であった。

当日は学校の先生や、メーカー関係者など、ロボット教育に携わる人たちが全国から集まった。文部科学省からも出席があり、シンポジウムが単なる話し合いの場ではなく、その成果が教育の場へと現実的に

反映されることを示していた。

こうして、「ロボット教育と日本の未来」をテーマとするシンポジウムが、ロボフェスタ協会の中野理事長の開会あいさつで始まった。



NPO法人 国際ロボフェスタ協会 中野栄二 理事長



東京工業大学 森政弘 名誉教授

ロボットを使ったものづくり教育では、生徒が自身の手でさまざまなことを学びとる

最初に日本科学技術振興財団 有馬朗人会長と、本誌でもおなじみの東京工業大学 森政弘 名誉教授による基調講演が行われた。当日のスケジュールの兼ね合いもあって、いずれもわずかな時間だったが、とても印象に残る内容だった。

有馬会長は日本の科学や技術の力を、日本人自らが過小評価するべきではない、と力強く語った。昨年の新潟中越地震で脱線してしまった東北新幹線についても、「あれを否定的に捉えるべきではないと思う。あんな大きな地震だったのに、脱線するくらいですんだということは、その技術力を



財団法人 日本科学技術振興財団 有馬朗人 会長